



Share Rotary— Serve People

みんなにロータリーを
みんなに奉仕を



会長 内山喜一 幹事 斎藤 隆 副会長・クラブ奉仕 佐藤順治 職業奉仕 石川寿男 社会奉仕 佐藤 衛 国際奉仕 三井 健 青少年奉仕 小池繁治

出席報告：会員 74 名 出席 61 名 出席率 82.43% 前回出席率 79.45% 修正出席 63 名 確定出席率 86.30%

会 長 報 告

内 山 喜 一 君



本年も残り少なくなりまして。この半年間を振り返ってみますと、7月19日のガバナー公式訪問をスタートとして、本年はガバナー出身地の故もありましてか、年次大会、これは別と致しまして、其の他各種大会が主として福島県並に他地区に於いて開催される傾向が強かったのでありますが、会員各位の絶大なるご協力に依りまして行事の大半を終える事が出来ました。

尚、この前期半年の各委員会の活動は計画目標を遙かに越え、多大なる成果をあげつつある処と確信するものであります。特に前年度より引継がれましたロータリー財団への協力と活動は注目される処です。又、本年度は田中ガバナー並に石黒パストガバナーの強いご要請に基き、外部拡大委員会を新設致しました。委員長上野三郎さんの意欲的な活動で、西クラブと合同・協力して新クラブ設立への実をあげつつある事は高く評価されるものであります。

そのほか各委員会の実績を数えあげるには本日は時間が少なく、次の機会に譲る事と致します。

此処に改めて心から皆様のご協力と友情に厚くお礼申し上げる次第でございます。

年末年始各位にはお体に呉々もお気をつけて、良いお正月を迎えられますよう祈念致しまして、ご協力への感謝をこめて会長報告を終わります。

幹 事 報 告

斎 藤 隆 君

1. 例会場変更のお知らせ



鶴岡西ロータリークラブの例会場を1月より物産館3階ホールに変更。

2. 日中友好のしんぶん
「日本と中国」12月15日号到着

3. 1月3日は3が日のため休会。1月第1例会は1月10日。

委 員 会 報 告

親睦活動委員会

佐 藤 忠 君

年度計画にあるタラ汁を1月24日恒例により実施します。10日に申込書配付します。今年は職業奉仕委員会と共催で、当日は午後4時から1時間位高砂電子の職場見学を行ないます。従って午後5時30分からの例会時間変更となります。

雑誌広報委員会

工 藤 弘 道 君

お手もとに「ロータリーの友」購買に関するアンケート調査票を配付しました。早速ご記入の上、遅くとも次回例会までに提出して下さい。

ス マ イ ル

石塚敏彦君 12月22日山形県知事から進出優良企業として表彰状をいただいたので。

ビ ジ タ ー

鶴岡西R.C. 佐藤 等君・羽根田正吉君
(今週の担当者 佐々木栄一)

庄内空港の建設を推進しましょう



ロータリー用語便覧 ⑩

新クラブ設立に必要な会員数 新クラブ設立には、少なくとも20名の正会員を要する。なお、人口10万未満の都市では35名、10万以上の人口があれば

50名まで許される。創立会員が20名を越える場合は、その超過部分にはアディショナル正会員またはシニア・アクティブ会員を含んでも差支えない。創立会員をCharter Memberと呼んでいる。

青少年活動週間 (Yonth Activities) Week
1969年に設けられた週間。国際ロータリーは1962年、少年を対象にインターアクトを、1968年には青年を対象にローターアクトを発足させ奉仕精神を若い世代に植付けるように努めてきた。R.I.理事会は、各クラブの青少年委員長をして、I.C.、R.A.C.青少年交換など一切の活動を統括させ、社会奉仕委員会を経ずに直接理事会へ報告するようにすすめている。

青少年交換 ある程度事務の経験を有する青少年に、他国で短期間同一種職の体験を得る機会を与え、また学生に対しては他国の学校で勉強する経験を、休暇中の青少年に他国を訪問・滞在する機会を与えるために、各国間で相互に行なわれる国際ロータリー奉仕のひとつ。

青年功績賞 善良な市民精神を育成するのに表彰ほど効果的な方法はないので、ロータリー・クラブの所在する地域社会の優秀な青年に、「青年功績賞」(6204-J)を贈って表彰するのも一つの試みとして奨励されている。

世界社会奉仕 各国のロータリー・クラブが互いに協力して、生活水準の向上と国際理解の推進とをめざすプログラム。約15年ほど前に、多くの国のロータリー・クラブがそれぞれの地域社会において、資源の自給力不足に直面していることがわかった結果発足したものである。故Teenstra会長が1965年度会長就任最初の理事会で国際協調の緊要性を説き、国際奉仕への深い関心を要請した上で、具体的に示された構想のひとつが世界社会奉仕化であった。が、これが実際にロータリー

のプログラムとなったのは“Better World Through Rotary”を提唱し、「世界に1人の飢えたる者、1人の文盲者のいる限り、それはロータリアンの重大関心事でなければならない」という名言を残した1966年度会長Richard Evans(故人)の年度であった。

世界理解週間 毎年、2月23日を含む週間をいう。
R.I.は1979年7月から、新たな国際理解の方法として、地区およびクラブの組合せ方式を発足させたが、これは3年を1期として3回、すなわち9年間で世界諸大陸の国民と知り合ってもらおうという構想である。日本の各地区は、第1期は北アメリカと、第2期は豪州・ニュージーランドと第3期は中南米との組み合わせになる。もちろん強制ではなく、自発的に相手地区・クラブと世界社会奉仕、青少年交換、研究グループ交換、その他一般文化交流や親善活動が期待されるが、各地区・クラブが従来から持っている姉妹関係、マッチド関係の継続を妨げるつもりはない。

世界社会奉仕(World Community Service)は社会理解のための具体的な効果を上げているが、これは発展途上国のクラブが作る社会奉仕計画に対し、その力不足の部分に先進国クラブが手を貸そうというもので、世界政治上の「南北問題」解明の一助にもなっている。

創立会員 新たにロータリー・クラブを結成、国際ロータリーに加盟申請するときの会員名簿に記載された会員を創立会員という。創立会員の数は、人口10万人までの都市では35人まで、10万以上の都市では50名までを最大限度としている。1963年1月の理事会は、最小限25名の創立会員名簿を要求、その後1964-65年理事会はこれを20名としたが、できるだけ速かに25名にするように慫慂している。

なお、理事会が加盟を決定するまでは、一旦提出された名簿に載っていない者を新しく会員にさせてはならないことになっている。

チャーター・ナイト 国際ロータリー理事会で加盟が承認された新しいクラブの創立とR.I.加盟承認の式典を指している。